

(様式1) 補助金等シート
(1) 補助内容

教育指導課-1
令和 8 年度予算用

1	名称 (予算事業名)		特別支援教育振興補助事業										
	予算事業名		特別支援教育事業										
	予算事業コード		02417										
2	交付開始年度	不明	—	年度	創設から	—	年度目	3	終期	令和	8	年度	
4	分類	事業費補助					5	所属	教育指導課				
6	根拠法令	鈴鹿市補助金等交付規則、鈴鹿市補助金等交付要綱											
7	事業の目的・概要	鈴鹿市特別支援教育研究会の事業に対し、費用の一部を補助することにより、鈴鹿市における特別支援教育の振興・充実を図ることを目的とする。 特別支援教育の研修会・学習会の開催、実践研究及び交流、研究冊子の発行、卒業生を送る会等の行事を行う。鈴鹿市の特別支援教育を充実させ、子どもの進路保障に貢献し、保護者とながり、信頼を得てきた。											
8	補助対象者	鈴鹿市特別支援教育研究会											
9	補助金額等	(単位:千円)	補助対象事業費(A)	財源内訳				補助率(B/A)	補助対象事業費の繰越額(C)	補助金に対する繰越金の割合(C/B)			
		R5年度決算額	202	市補助金(B)	152	国補助金	0	0	50	75.2%	0	0.0%	
		R6年度決算額	187	139	0	0	48	74.3%	0	0.0%			
		R7年度当初予算額	178	129	0	0	49	72.5%					
		R8年度予算要求額	165	118	0	0	47	71.5%					
10	補助対象事業費の内訳 (具体的に記載)	行事費、中学校区活動費、中学校部会活動費、研修補助費、事務局費											
	補助金等の算出根拠 (具体的に記載)	行事費として、卒業生を送る会準備費等を補助 中学校区活動費、中学校部会活動費、事務局費として消耗品費等を補助 研修補助費として、研修会講師謝礼等を補助											
	増減理由	市の予算の縮小のため。											

(2) 補助金等判断基準

11	総合評価点	20	12	適否の評価	継続
13	補助金等の判断基準	評価点	評価の理由		
	必要性	5	支援を必要とする児童生徒の多様化が進む中、個別のニーズに応じた教育、途切れのない支援の必要性、重要性が高まっている。また、「鈴鹿市総合計画2031」基本施策0122「自己肯定感を高め、多様性を認め合う子どもの育成」では、一人ひとりの能力・可能性を最大限に伸ばす教育を推進することについて記載されている。鈴鹿市特別支援教育研究会は、特別な支援が必要な児童生徒への支援や教職員の力量の向上について、具体的な実践と研究に取り組んでいる。		
		(減点) 0			
	公平性	5	市内の小中学校在籍の特別な支援を必要とする児童生徒を対象とした活動を行うとともに、学校の枠を超えた中学校区や市全体の交流が図られる取組を進めている。また、市内の小中学校の全教職員を対象に、研究成果を報告している。研究の成果は、通常学級における学習活動や支援の参考にもなる内容である。		
	効果性	5	【評価の理由】 研究冊子を市内の小中学校へ配布し、研修会を開催して教員の資質向上に寄与している。 中学校部会の合同作業の活動により、生徒の進路保障に努めている。 卒業生を送る会の行事により、児童生徒の交流が図られている。 【補助金等の交付により得られる効果・実績・目的の達成状況(具体的に記載)】		
(減点) 0		送る会では、準備や発表等の活動の中で中学校区の児童生徒の交流が図られるとともに、自己肯定感の向上、目標に向かって努力する態度の育成等多くの効果がある。			
透明性	5	年度末に会計監査を行い、年度初めに総会で承認をしている。事業計画・会計予算・決算報告を教育委員会に提出している。			
	(減点) 0				

(3) 終期延長の理由(終期を延長した初年度のみ記入) 前回終期 令和 7 年度

特別支援教育対象児童生徒数は増加しており、特別支援教育の内容をさらに充実させていくことが求められているため。

(様式1) 補助金等シート
(1) 補助内容

教育指導課-2
令和 8 年度予算用

1	名称 (予算事業名)	部活動費補助											
		予算事業名	部活動振興費										
		予算事業コード	00919										
2	交付開始年度	不明	—	年度	創設から	—	年度目	3	終期	令和	8	年度	
4	分類	事業費補助					5	所属	教育指導課				
6	根拠法令	鈴鹿市補助金等交付規則、鈴鹿市補助金等交付要綱											
7	事業の目的・概要	中学校教育活動の一環として、生徒に部活動における様々な活動の機会を与え、技能の向上と生徒の健全育成を図る。中学校体育連盟主催の県大会、東海大会、全国大会への生徒の出場に係る旅費、宿泊費等を補助する。											
8	補助対象者	各中学校教育推進委員会											
	交付先(補助対象者と異なる場合)												
9	補助金額等	(単位:千円)	補助対象事業費(A)	財源内訳				補助率(B/A)	補助対象事業費の繰越額(C)	補助金に対する繰越金の割合(C/B)			
				市補助金(B)	国補助金	県補助金	その他						
		R5年度決算額	5,819	4,011	0	0	1,808	68.9%	0	0.0%			
		R6年度決算額	6,302	4,490	0	0	1,812	71.2%	0	0.0%			
		R7年度当初予算額 R8年度予算要求額	11,055 9,562	7,654 6,582	0 0	0 0	3,401 2,980	69.2% 68.8%					
10	補助対象事業費の内訳(具体的に記載)	<ul style="list-style-type: none"> 「鈴鹿市立中学校の部活動費補助金交付要領」で定めた県大会以上の大会に参加する生徒の旅費、宿泊費等 全国大会 4,593,180円 東海大会 2,511,460円 県大会 1,468,000円 プラスバンド楽器輸送費 県大会等 675,000円 東海大会、全国大会 315,000円 											
	補助金等の算出根拠(具体的に記載)	運動部全国大会旅費、宿泊費等は1/2を補助 すべての大会における宿泊費は、8,500円を上限として補助 文化部のすべての大会における旅費、宿泊費等は、全額の2/3を補助 年間楽器輸送費は、全額の1/3を補助 ただし、県大会等は25,000円、東海・全国大会は35,000円を上限として補助											
	増減理由	大会開催地及び実績をもとに見直しを図ったため減。											

(2) 補助金等判断基準

11	総合評価点	20	12	適否の評価	継続
13	補助金等の判断基準	評価点	評価の理由		
	必要性	5	大会への円滑な参加の促進、保護者負担の軽減のため		
		(減点) 0			
	公平性	5	市内全中学校の運動部や文化部に加入している生徒が対象である。生徒の運動や文化的活動に対する意欲向上や体力向上に寄与している。		
	効果性	5	【評価の理由】 大会への参加が滞りなく行われている。		
		【補助金等の交付により得られる効果・実績・目的の達成状況(具体的に記載)】 保護者の負担を軽減し、生徒の大会への参加を促進することで、生徒のもつ力を十分発揮する機会を多く与えることができる。			
透明性	5	鈴鹿市立中学校の部活動補助金交付要領、部活動費補助金の支給に関する規定に従って支給している。			
	(減点) 0				

(3) 終期延長の理由(終期を延長した初年度のみ記入)

前回終期 令和 7 年度

大会参加に係る旅費や宿泊費等の保護者負担が増加すると、経済的困窮家庭の生徒にとって、上位大会への参加が困難になることが考えられるため。

(様式1) 補助金等シート
(1) 補助内容

教育指導課-3
令和 8 年度予算用

1	名称 (予算事業名)	市中体連運営補助										
		予算事業名	部活動振興費									
		予算事業コード	00919									
2	交付開始年度	不明	—	年度	創設から	—	年度目	3	終期	令和	8	年度
4	分類	事業費補助					5	所属	教育指導課			
6	根拠法令	鈴鹿市補助金等交付規則、鈴鹿市補助金等交付要綱										
7	事業の目的・概要	中学校教育の一環として、生徒に部活動におけるさまざまな活動の機会を与え、技能の向上や生徒の健全育成を図る。鈴鹿市中学校総合体育大会（新人大会含）の開催にあたり、運営の円滑化を図る。										
8	補助対象者	鈴鹿市中学校体育連盟										
	交付先（補助対象者と異なる場合）											
9	補助金額等	(単位:千円)	補助対象事業費(A)	財源内訳				補助率(B/A)	補助対象事業費の繰越額(C)	補助金に対する繰越金の割合(C/B)		
			市補助金(B)	国補助金	県補助金	その他						
		R5年度決算額	1,654	1,400	0	0	254	84.6%	0	0.0%		
		R6年度決算額	1,645	1,493	0	0	152	90.8%	0	0.0%		
		R7年度当初予算額 R8年度予算要求額	1,619 1,619	1,421 1,400	0 0	0 0	198 219	87.8% 86.5%				
10	補助対象事業費の内訳（具体的に記載）	地区大会及び新人大会運営費 会議費6,000円 需用費16,000円 地区大会運営費1,202,000円 新人大会会場費・審判費325,000円 史料編纂費10,000円 中部ブロック大会費20,000円 救急用品補助費40,000円										
	補助金等の算出根拠（具体的に記載）	鈴鹿市中学校体育連盟体育大会補助事業予算 1,619,000円のうち、1,400,000円を補助										
	増減理由	地区大会運営に際して、学校施設の利用により減額										

(2) 補助金等判断基準

11	総合評価点	20	12	適否の評価	継続
13	補助金等の判断基準	評価点	評価の理由		
	必要性	5	休日の学校部活動の地域移行が進められているが、平日はこれまで通り学校部活動として実施され、中体連大会にも学校単位で参加できる。学習指導要領では、部活動について、「地域の人々の協力、社会教育施設、社会教育関係団体等の各種団体との連携などの運営上の工夫を行い、持続可能な運営体制が整えられるようにする」とされており、中体連大会の円滑な実施と保護者負担の軽減のため、本事業は必要である。		
		(減点) 0			
	公平性	5	市内全中学校の運動部に加入している生徒が対象である。生徒の運動に対する意欲向上や体力向上に寄与している。		
	効果性	5	【評価の理由】 大会の運営が滞りなく行われている。		
		【補助金等の交付により得られる効果・実績・目的の達成状況（具体的に記載）】 保護者の負担の軽減により、生徒の大会への参加を促進することができる。大会の開催は、部活動による日頃の練習の成果を発揮する場として必要であり、生徒たちの活動への意欲にもつながる。			
透明性	5	年度当初には事業計画と事業予算計画、年度末には事業報告と会計報告の提出を求め、適切な会計処理を行っている。			
	(減点) 0				

(3) 終期延長の理由（終期を延長した初年度のみ記入）

前回終期 令和 7 年度

中体連大会運営費が保護者負担になると、保護者負担が大きくなり、経済的困窮家庭では負担が困難となり、生徒が日頃の練習の成果を発揮する機会に参加できなくなるため。また、その結果として、生徒がスポーツに親しむ機会そのものを失うことが考えられるため。